

3. 鳥類調査

3.1 調査実施状況

鳥類調査は表 3.1.1 の日程で実施した。

表 3.1.1 鳥類調査の実施日

春季	平成 24 年 7 月 5 日
夏季	平成 24 年 8 月 3 日
秋季	平成 24 年 9 月 14 日
冬季	平成 25 年 1 月 11 日

3.2 種類数

各地点の鳥類の確認種の一覧表を表 3.2.1 に示す。また、確認位置を図 3.2.1～図 3.2.4 に示す。

鳥類の各季の確認種数は、春季が 25 種、夏季が 22 種、秋季が 28 種、冬季が 47 種であった。確認個体数の多い種としては、春季から秋季はともウミネコ、カワウ、ハシボソガラスが多く、冬季はユリカモメ、カワウ、ハシボソガラスが多かった。冬季はカモ目が多く確認された。

経年での整理を行うため、種の配列等は「日本鳥類目録 改訂第 6 版」(2000、日本鳥類学会) に準じた。なお、「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(2012、日本鳥類学会) に準じた出現種一覧は資料編に示した。

表 3.2.1 鳥類の確認種一覧表

No.	目	科	種名	注1 渡り 区分	確認状況					重要種選定基準				
					春季	夏季	秋季	冬季	合計	注2 天然	注3 希少	注4 環境省 REDLIST 2012	注5 RDB三重	注6 近畿RDB
1	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	留鳥	2	5	6	1	14					
2			ハジロカイツブリ	冬鳥				2	2					
3			カンムリカイツブリ	冬鳥				2	2					
4	ペリカン	ウ	カワウ	留鳥	41	33	41	100	215					
5	コウノトリ	サギ	ゴイサギ	留鳥		2			2					
6			ダイサギ	留鳥	1	2	7		10					
7			コサギ	留鳥	1	6	5	3	15					
8			アオサギ	留鳥	2	2	2	2	8					
9	カモ	カモ	マガモ	冬鳥				21	21					
10			カルガモ	留鳥	6	4	27	68	105					
11			コガモ	冬鳥				40	40					
12			ヒドリガモ	冬鳥				10	10					
13			オナガガモ	冬鳥				74	74					
14			ハシビロガモ	冬鳥				4	4					
15			ホシハジロ	冬鳥				32	32					
16			キンクロハジロ	冬鳥				20	20					
17			スズガモ	冬鳥				2	2					
18			ウミアイサ	冬鳥				1	1					
19	タカ	タカ	ミサゴ	留鳥			2	2	4		NT	EN[繁殖] VU[越冬]	ランク3 (繁殖+越冬個体群)	
20			ハイタカ	冬鳥				1	1		NT	NT	要注目種 (繁殖個体群) 注7	
21			ノスリ	冬鳥				1	1					
22		ハヤブサ	ハヤブサ	留鳥				1	1			VU	CR[繁殖] EN[越冬]	
23	チドリ	チドリ	コチドリ	夏鳥	3				3			EN	ランク3 (繁殖個体群)	
24			イカルチドリ	留鳥				4	4			VU[繁殖] NT[越冬]		
25			シロチドリ	留鳥				44	44			VU	EN[繁殖] NT[越冬]	ランク3 (繁殖+越冬個体群)
26		シギ	トウネン	旅鳥			8		8					ランク3 (通過個体群)
27			ハマシギ	冬鳥				11	11			NT		
28			キアシシギ	旅鳥		5			5					
29			イソシギ	留鳥	5	4	5	4	18					
30			ソリハシシギ	旅鳥			5		5					
31		カモメ	ユリカモメ	冬鳥			2	1153	1155					
32			セグロカモメ	冬鳥			4	14	18					
33			オオセグロカモメ	冬鳥				2	2					
34			カモメ	留鳥				83	83					
35			ウミネコ	留鳥	241	1139	1471	26	2877					要注目種 (繁殖個体群) 注7
36			コアジサシ	夏鳥	1				1		II	VU	EN	ランク2 (繁殖個体群)
37	ハト	ハト	キジバト	留鳥	1	1	1	3	6					
38			アオバト	留鳥	12	3	2		17					
39	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	留鳥			1		1					
40	スズメ	ヒバリ	ヒバリ	留鳥		2			2					
41		ツバメ	ツバメ	夏鳥	21	11			32					
42		セキレイ	ハクセキレイ	留鳥	5	20	8	9	42					
43			セグロセキレイ	留鳥	4	2	3	2	11					
44		ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	1	1	5	23	30					
45		モズ	モズ	留鳥			1	1	2					
46		ツグミ	ジョウビタキ	冬鳥				1	1					
47			イソヒヨドリ	留鳥	2		2	2	6					
48			ツグミ	冬鳥				6	6					
49		ウグイス	ウグイス	留鳥				1	1					
50			セッカ	留鳥	1	1	3		5					ランク3 (繁殖+越冬個体群)
51		シジュウカラ	シジュウカラ	留鳥	2				2					
52		メジロ	メジロ	留鳥				4	4					
53		ホオジロ	ホオジロ	留鳥	2		1	6	9					
54			アオジ	冬鳥				3	3					
55			オオジュリン	冬鳥				2	2					
56		アトリ	カワラヒワ	留鳥	15		3	2	20					
57			シメ	冬鳥				1	1					ランク3 (越冬個体群)
58		ハタオリドリ	スズメ	留鳥	17	10	28	56	111					
59		ムクドリ	ムクドリ	留鳥	20	2	16	36	74					
60		カラス	ハシボソガラス	留鳥	26	10	48	77	161					
61	(ハト)	(ハト)	カワラバト (ドバト)	家禽類	48	2	1		51					
	9目	25科	61種	種数	25	22	28	47	61					
				個体数	480	1267	1708	1963	5418	0種	1種	6種	7種	9種

種の配列は「日本鳥類目録 改訂第6版」(2000、日本鳥学会)に準じた。

注1. 渡りの区分は以下のとおりである

(渡りの区分は「三重県における鳥類分布・生息に関する調査報告書(農林水産部林業事務局緑化推進課, 1987年3月)」を参考に、近年の県内での確認状況を考慮して区分した)

留鳥：一年中見ることが出来る種----- 31種
 夏鳥：繁殖のために渡来する種----- 3種
 冬鳥：越冬のために渡来する種----- 23種
 旅鳥：春秋の渡り期に定期的に渡来する種----- 3種
 家禽類：飼鳥が逃げ出して野生化した種----- 1種

注2. 「文化財保護法」(1950年5月30日法律第214号・1950年8月施行)により地域を定めて天然記念物に選定されている種及び亜種を示す。

注3. 「絶滅のおそれのある野生動物種の保存に関する法律」(1992年6月5日法律第75号・1993年4月施行)において希少野生動物種に指定されている種及び亜種を示す。

II：国際希少野生動物種

注4. 「第4次レッドリストの公表について(環境省報道発表資料, 2012年8月28日)」に記載されている種及び亜種を示す。

VU：絶滅危惧I類

NT：準絶滅危惧

注5. 「三重県レッドデータブック2005動物」(三重県環境森林部自然環境室, 2006)に記載されている種及び亜種。

CR：絶滅危惧IA類：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種。

EN：絶滅危惧IB類：IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種。

VU：絶滅危惧種：絶滅の危機が増大している種。

NT：準絶滅危惧種(Near Threatened)：存続基盤が脆弱な種。

注6. 「近畿地区・鳥類レッドデータブック-絶滅危惧種判定システムの開発(京大大学術出版会, 山岸哲監修、江崎保男・和田岳編著, 2002年)」に記載されている種を示す。

(記載種のうち、三重県におけるランク3以上の種、およびランク4に含まれる要注目種を示した)

ランク2：絶滅危惧。絶滅する可能性が大きい。

ランク3：準絶滅危惧。絶滅する可能性がある。

要注目種：要注目種：ランク4と判定された種のうち、何らかの擾乱によって一気に絶滅する可能性がある、あるいは全国・世界レベルで絶滅の危険性があるとみなされているもの。

注7. 三重県においては「越冬個体群(ランク4)」とされている。

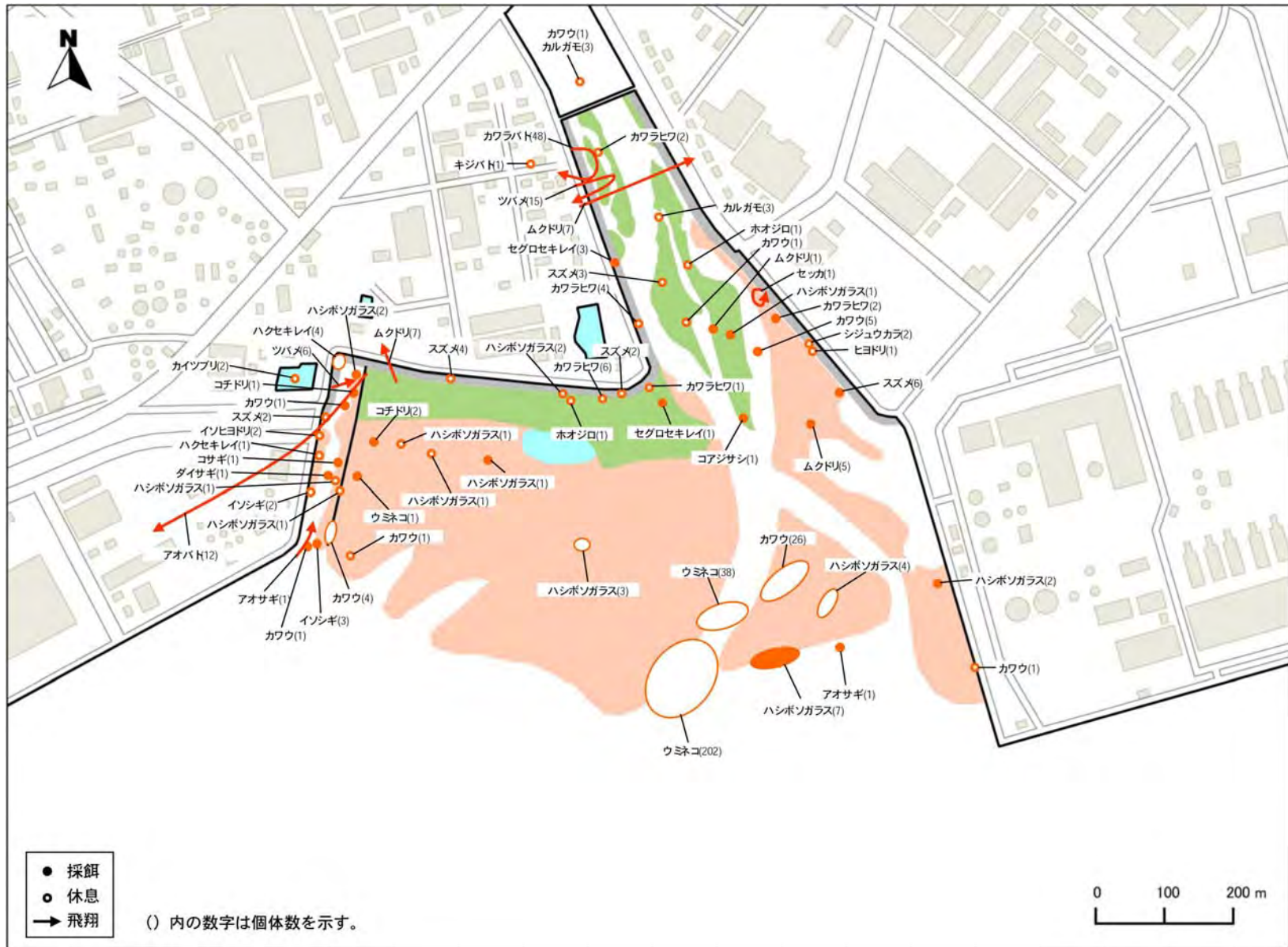


図 3.2.1 確認位置 (春季)

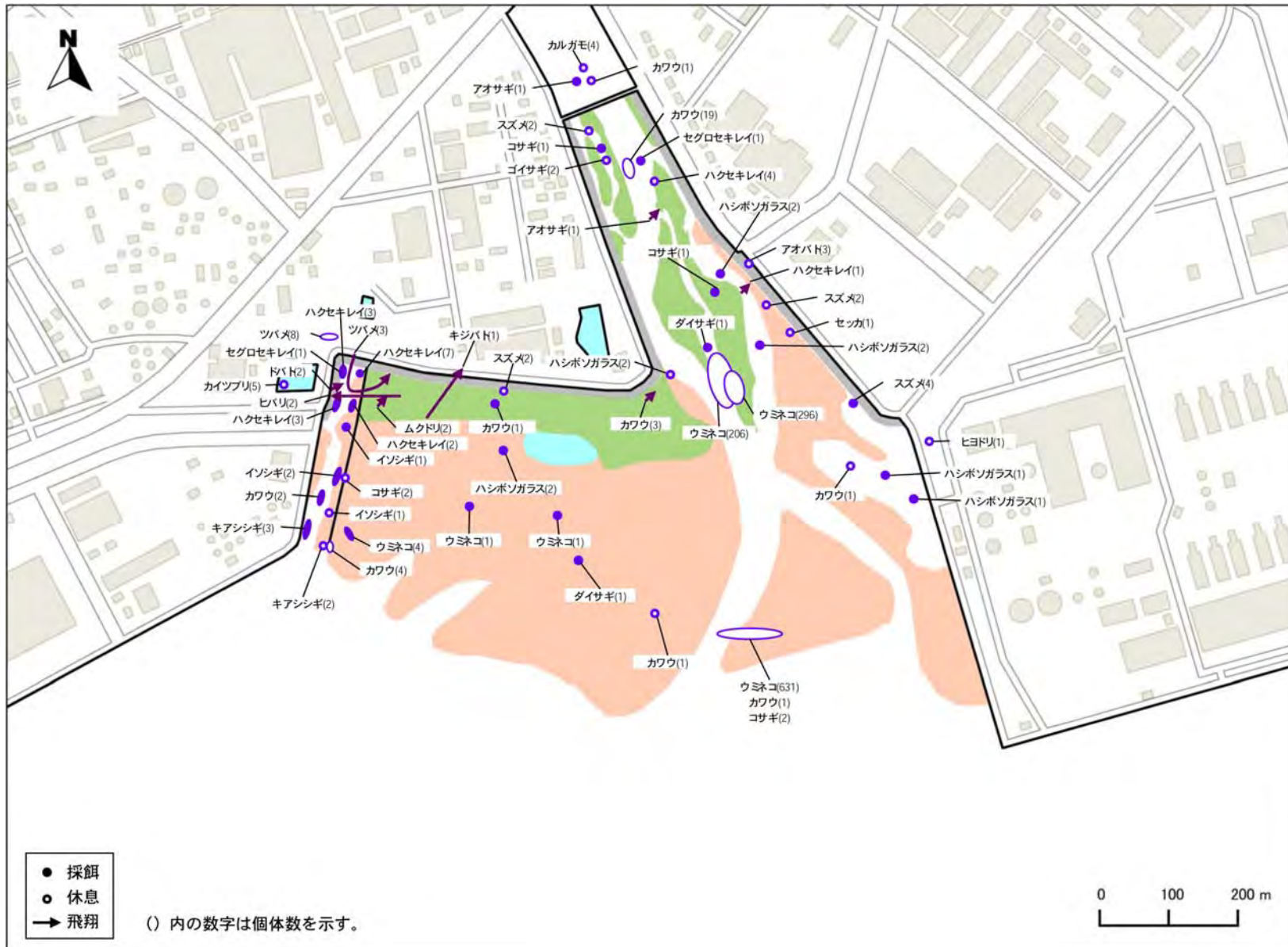


図 3.2.2 確認位置 (夏季)

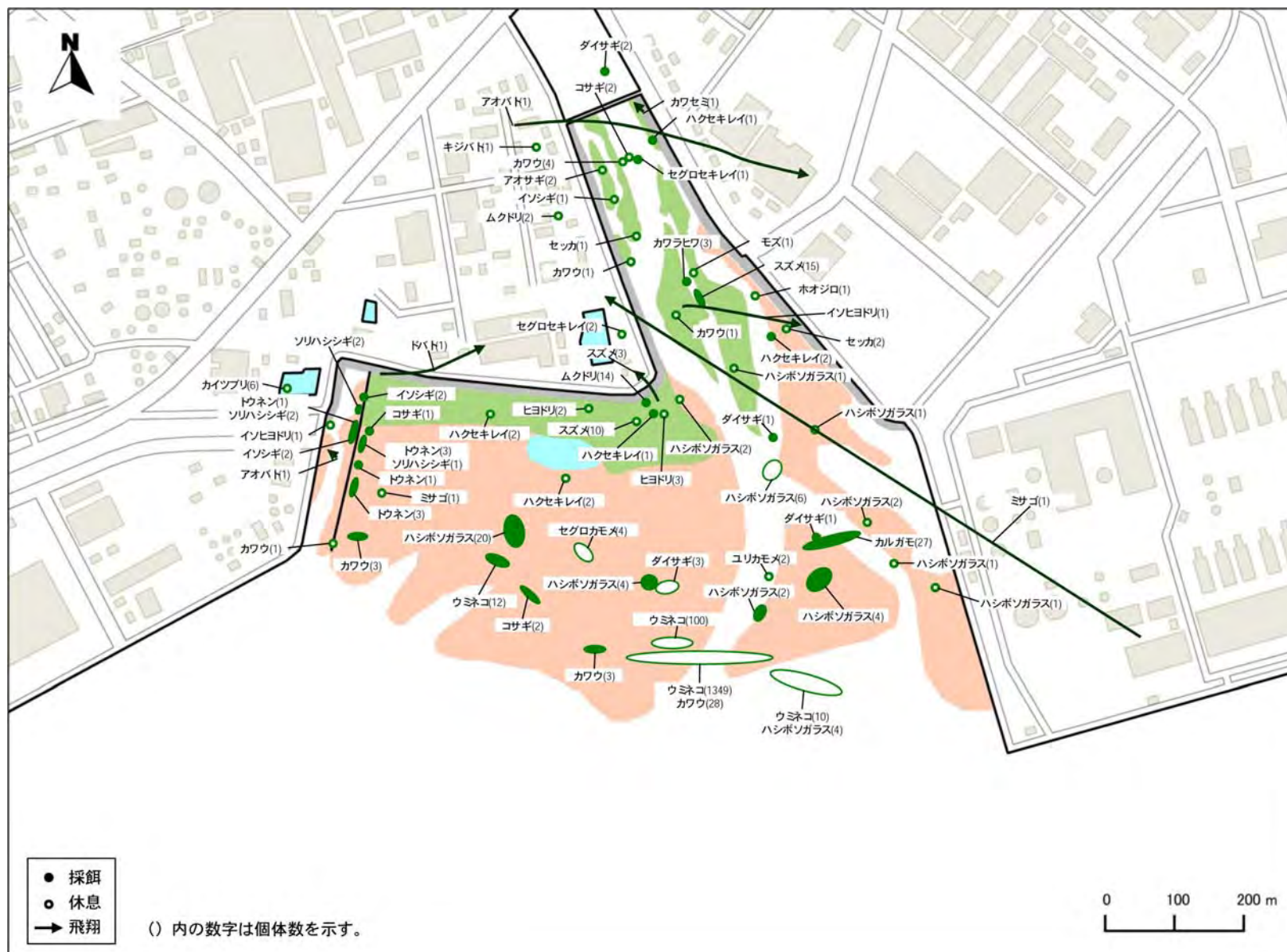


図 3.2.3 確認位置 (秋季)

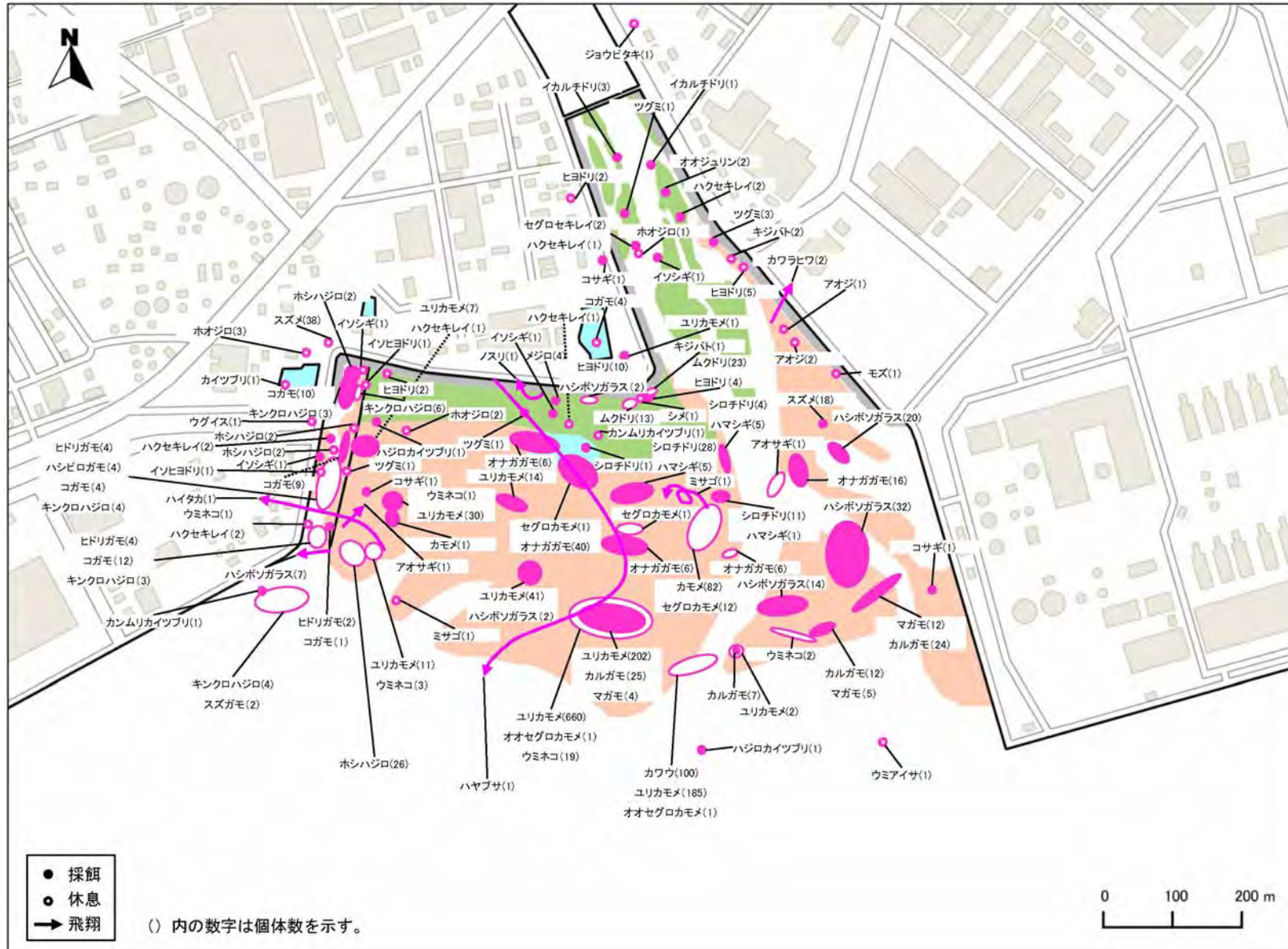


図 3.2.4 確認位置 (冬季)

3.3 出現状況

目別の種数及び個体数を表 3.3.1、図 3.3.1 に示す。

春季は 25 種 480 個体、夏季は 22 種 1,267 個体、秋季は 28 種 1,708 個体、冬季は 47 種 1,963 個体であり、種数、個体数ともに冬季が多かった。

目別の種数は、いずれの時期もスズメ目が多かった（春季 12 種、夏季 9 種、秋季 11 種、冬季 17 種）。個体数では、いずれの時期もチドリ目カモメ科が多かった（春季 242 個体、夏季 1,139 個体、秋季 1,477 個体、冬季 1,278 個体）。

表 3.3.1 鳥類の目別種数及び個体数

	春季		夏季		秋季		冬季	
	種数	個体数	種数	個体数	種数	個体数	種数	個体数
カイツブリ目	1	2	1	5	1	6	3	5
ペリカン目	1	41	1	33	1	41	1	100
コウノトリ目	3	4	4	12	3	14	2	5
カモ目	1	6	1	4	1	27	10	272
タカ目	0	0	0	0	1	2	4	5
チドリ目チドリ科	1	3	0	0	0	0	2	48
チドリ目シギ科	1	5	2	9	3	18	2	15
チドリ目カモメ科	2	242	1	1139	3	1477	5	1278
ハト目	3	61	3	6	3	4	1	3
ブッポウソウ目	0	0	0	0	1	1	0	0
スズメ目	12	116	9	59	11	118	17	232
合計	25	480	22	1267	28	1708	47	1963

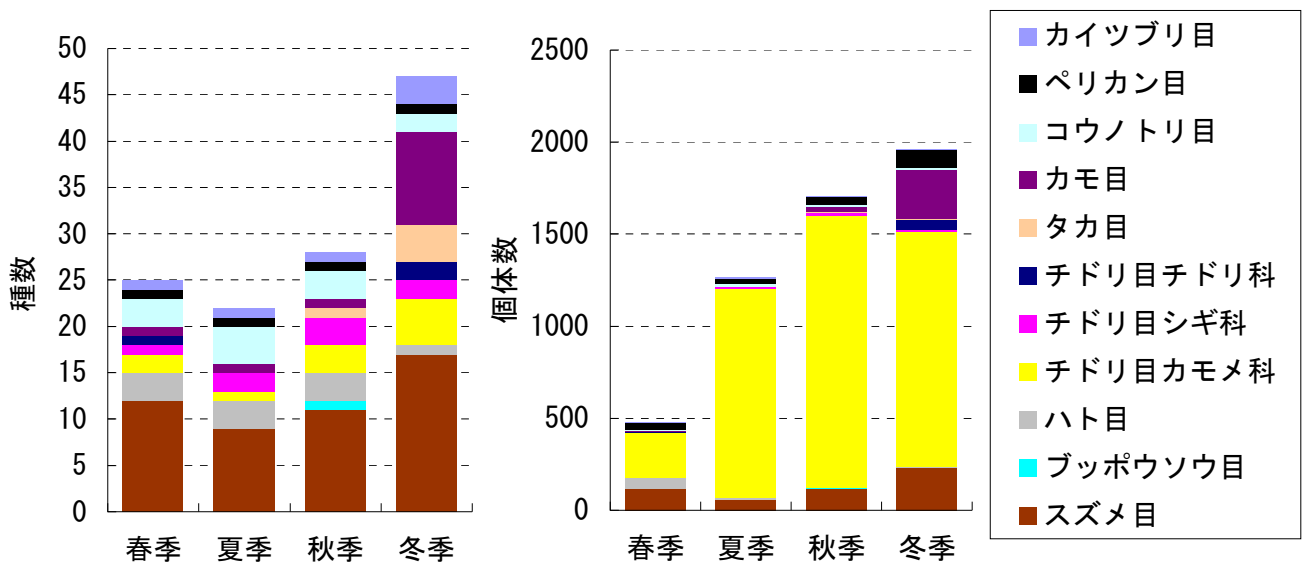


図 3.3.1 鳥類の目別種数及び個体数

3.4 干潟部利用状況

干潟を利用する鳥類として、水辺に生息するカイツブリ目、ペリカン目、コウノトリ目、カモ目、チドリ目、スズメ目セキレイ科の種のほか、魚食性の猛禽類であるミサゴ、干潟を利用する多数のハシボソガラスが確認された。これらの種の干潟利用域を明らかにするため、過年度の報告書に従い、食性に着目したグルーピングを行い、表 3.4.1 に示す 8 つのグループに区分した。

各グループの出現状況を次頁以降に整理した。

表 3.4.1 干潟部を利用する鳥類のグループ区分

No.	グループ	現地確認種 (H24)	主な食性	干潟部利用状況	
1	カイツブリ類 カワウ、ミサゴ、 アジサシ類	カイツブリ、 ハジロカイツブリ、 カンムリカイツブリ、 カワウ、ミサゴ、 コアジサシ	魚類等	浅瀬の中でも、沖に面したや やや水深のある場所を中心に、 潜水や空中からのダイビング による採餌、干潟全域の浅水 部で採餌、堤内地の池内で採 餌、干潟部での休息等。	<ul style="list-style-type: none"> ・干潟部沖側 ・朝明川河川域 の浅瀬 ・水路部導流堤 付近 ・堤内地の池
2	サギ類	ゴイサギ、ダイサギ、 コサギ、アオサギ	浅瀬で魚類、 甲殻類等	浅瀬や河川域、護岸周り等、 広範囲で採餌・休息。	<ul style="list-style-type: none"> ・干潟部沖側 ・朝明川河川域 の浅瀬 ・水路部導流堤 付近
3	陸ガモ類	マガモ、カルガモ コガモ、ヒドリガモ、 オナガガモ、ハシビロガモ	水草や海藻、草 の実や葉、水生 昆虫、貝類等	河口部の沖側のやや水深のある 場所で採餌、干潟部とその 周辺の浅水域や西側水路での 採餌・休息。	<ul style="list-style-type: none"> ・干潟全域 ・朝明川の浅瀬 ・西側水路部
4	海ガモ類	ホシハジロ、 キンクロハジロ、 スズガモ、ウミアイサ	潜水して貝類や 水生植物	西側水路を多数が利用。朝明 川河川域でも採餌・休息。	<ul style="list-style-type: none"> ・西側水路部 ・干潟部沖側
5	シギ・チドリ類	コチドリ、イカルチドリ、 シロチドリ、トウネン、 ハマシギ、キアシシギ、 イソシギ、ソリハシシギ	干潟・テトラ ポット上等で、 底生物や潮間 帯生物	西側水路部を多数が利用。朝 明川河川域でも採餌・休息。	<ul style="list-style-type: none"> ・干潟の水際 ・朝明川河川域 の浅瀬 ・西側水路部 ・砂州
6	カモメ類	ユリカモメ、セグロカモメ、 オオセグロカモメ、カモメ、 ウミネコ	魚類、甲殻類、 海藻、死骸等	干潟のうち、沖に面した浅水 域で採餌・休息、西側水路部 東の浜で休息。	<ul style="list-style-type: none"> ・干潟沖側 ・干潟水際 ・西側水路部 導流堤付近
7	セキレイ類	ハクセキレイ、 セグロセキレイ	カゲロウ、ハ エ、ガ等の昆虫 類やクモ、イト ミミズ等	朝明川河川域や西側水路部の 水際で採餌。	<ul style="list-style-type: none"> ・朝明川河川域 ・西側水路部
8	ハシボソガラス	ハシボソガラス	雑食 草木の実や昆虫 類、貝類、小動 物等	多数が干潟で採餌。潮干狩り で掘り返された場所で採餌。	<ul style="list-style-type: none"> ・干潟部

(1) カイツブリ類、カワウ、ミサゴ、アジサシ

カイツブリは西側水路の西側及び朝明川河口右岸外にある養魚池跡で休息していた。ハジロカイツブリ及びカンムリカイツブリは冬季に各2個体確認された。カワウは四季を通じて確認され、利用状況としては朝明川の河口で休息している個体が多くみられた。ミサゴは干潟上空を飛翔する様子や、魚を採餌している様子を確認した。コアジサシは河口部で採餌していた。

表 3.4.2 季節別出現状況

No.	種名	渡り区分	確認状況 (H24年度)				
			春季 6月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	合計
1	カイツブリ	留鳥	2	5	6	1	14
2	ハジロカイツブリ	冬鳥				2	2
3	カンムリカイツブリ	冬鳥				2	2
4	カワウ	留鳥	41	33	41	100	215
5	ミサゴ	留鳥			2	2	4
6	コアジサシ	夏鳥	1				1

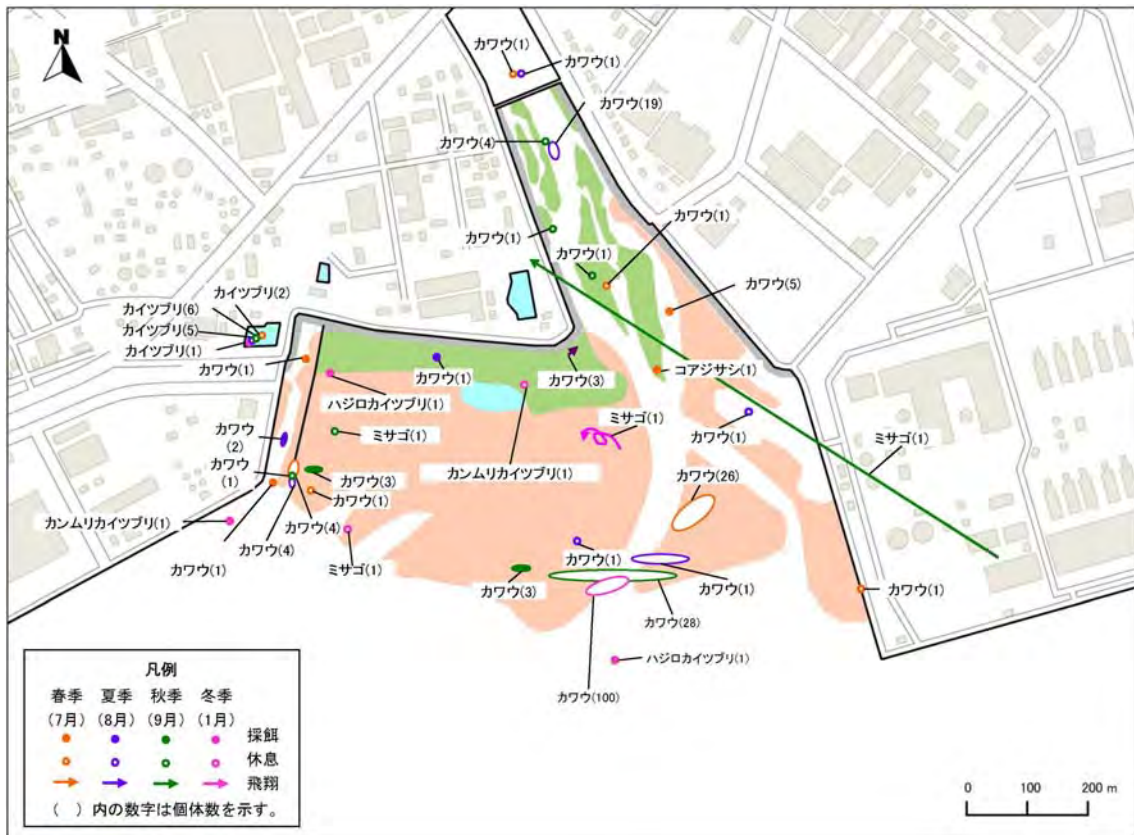
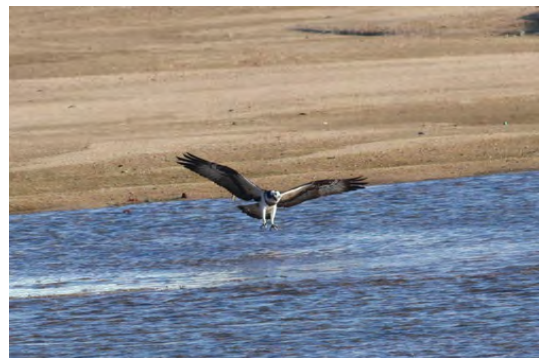


図 3.4.1 カイツブリ類、カワウ、ミサゴ、アジサシの出現状況



カワウ (7月)



ミサゴ (1月)

(2) サギ類

ゴイサギは夏季に確認され、朝明川河口部で休息していた。ダイサギは冬季以外、コサギとアオサギは四季を通じて確認された。ダイサギ・アオサギ・コサギは、干潟や朝明川の中州、西側水路で採食及び休息する様子を確認した。調査範囲内に広く分布していた。

表 3.4.3 季節別出現状況

No.	種名	渡り区分	確認状況 (H24年度)				
			春季 6月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	合計
1	ゴイサギ	留鳥		2			2
2	ダイサギ	留鳥	1	2	7		10
3	コサギ	留鳥	1	6	5	3	15
4	アオサギ	留鳥	2	2	2	2	8

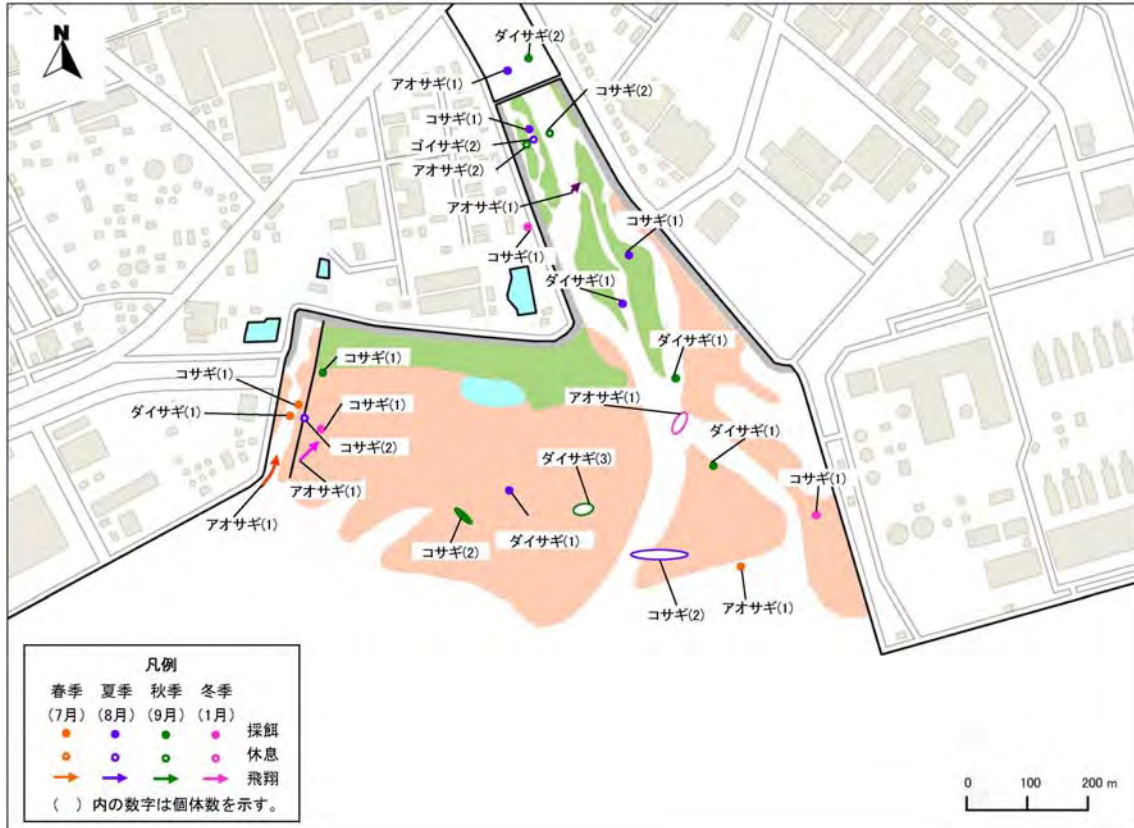


図 3.4.2 サギ類の出現状況



ダイサギ、コサギ (7月)



アオサギ (9月)

(3) 陸ガモ類

陸ガモ類は、カルガモが四季を通して確認され、その他の種は冬季にのみ確認された。

冬季の西側水路ではコガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ等が、朝明川河口部ではマガモ、オナガガモが確認された。カルガモは朝明川河口からその上流で採食や休息していた。

表 3.4.4 季節別出現状況

No.	種名	渡り区分	確認状況 (H24年度)				
			春季 6月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	合計
1	マガモ	冬鳥				21	21
2	カルガモ	留鳥	6	4	27	68	105
3	コガモ	冬鳥				40	40
4	ヒドリガモ	冬鳥				10	10
5	オナガガモ	冬鳥				74	74
6	ハシビロガモ	冬鳥				4	4

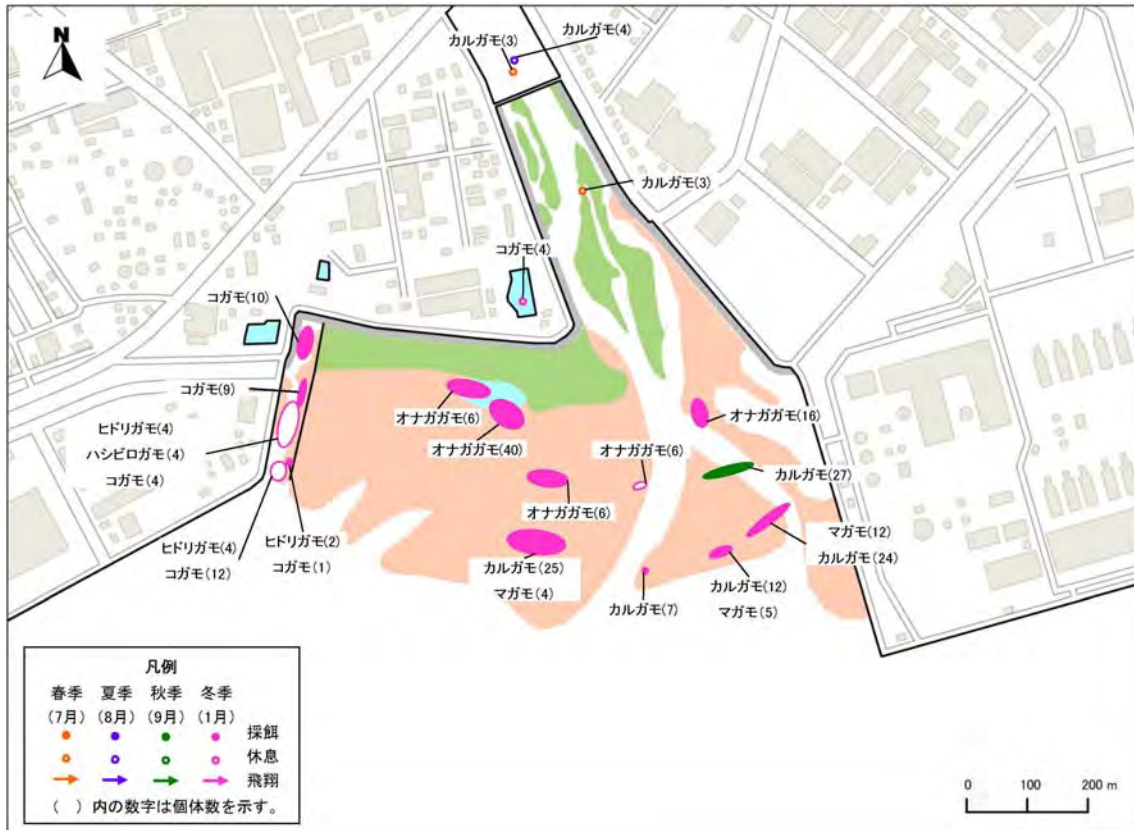


図 3.4.3 陸ガモ類の出現状況



カルガモ (7月)



ハシビロガモ (1月)

(4) 海ガモ類

海ガモ類は、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ウミアイサの4種が冬季にのみ確認された。

西側水路部でまとまって確認され、採食や休息をしていた。

表 3.4.5 季節別出現状況

No.	種名	渡り区分	確認状況 (H24年度)				
			春季 6月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	合計
1	ホシハジロ	冬鳥				32	32
2	キンクロハジロ	冬鳥				20	20
3	スズガモ	冬鳥				2	2
4	ウミアイサ	冬鳥				1	1

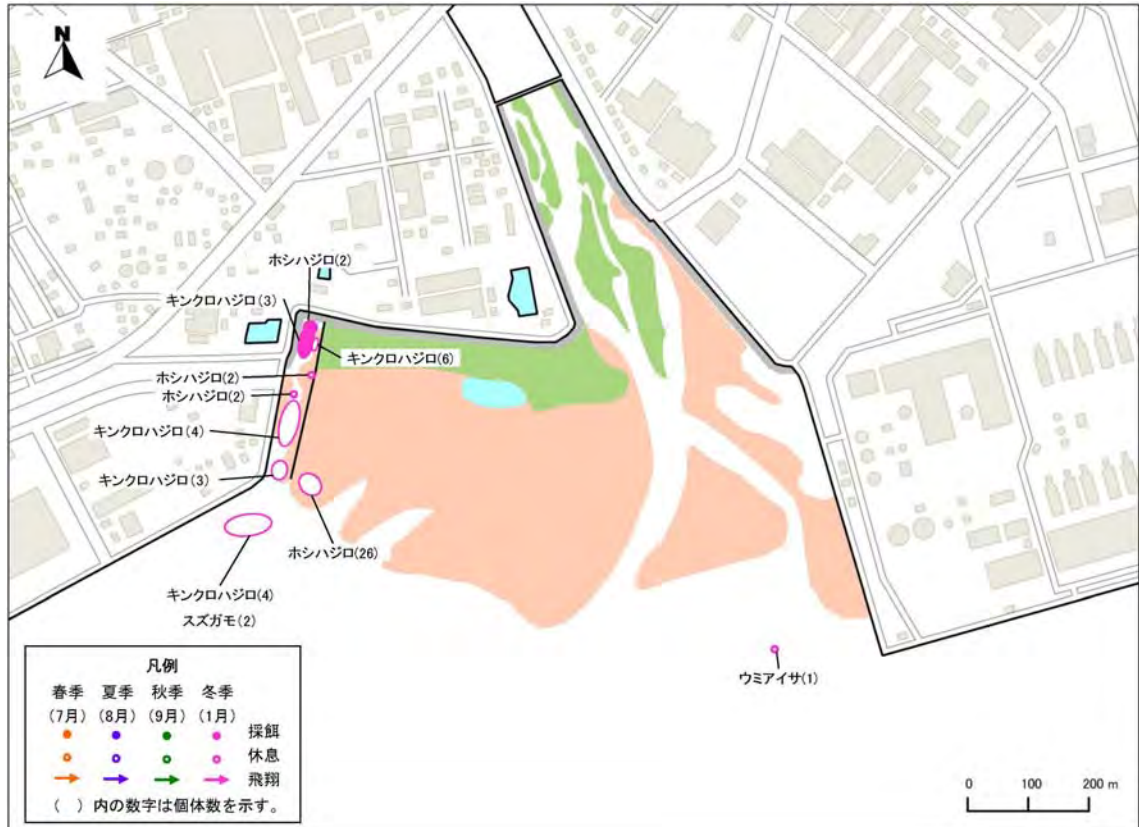
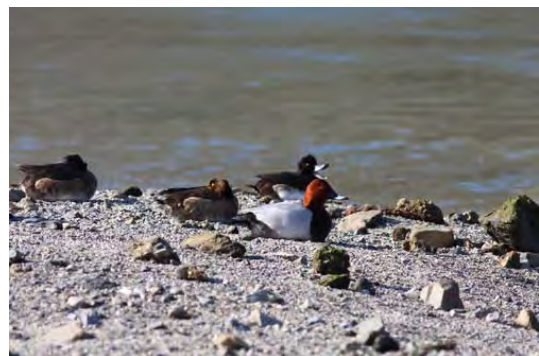


図 3.4.4 陸ガモ類の出現状況



キンクロハジロ (7月) 中央手前の個体



ホシハジロ (1月) 中央手前の個体

(6) カモメ類

留鳥であるウミネコが四季を通じて確認され、個体数は夏季、秋季が多く、冬季は少なかった。

ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、カモメが冬季を中心に確認された。

沖に面した干潟先端部等で多くの個体が採食や休息する様子が確認された。

表 3.4.7 季節別出現状況

No.	種名	渡り区分	確認状況 (H24年度)				
			春季 6月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	合計
1	ユリカモメ	冬鳥			2	1153	1155
2	セグロカモメ	冬鳥			4	14	18
3	オオセグロカモメ	冬鳥				2	2
4	カモメ	冬鳥				83	83
5	ウミネコ	留鳥	241	1139	1471	26	2877

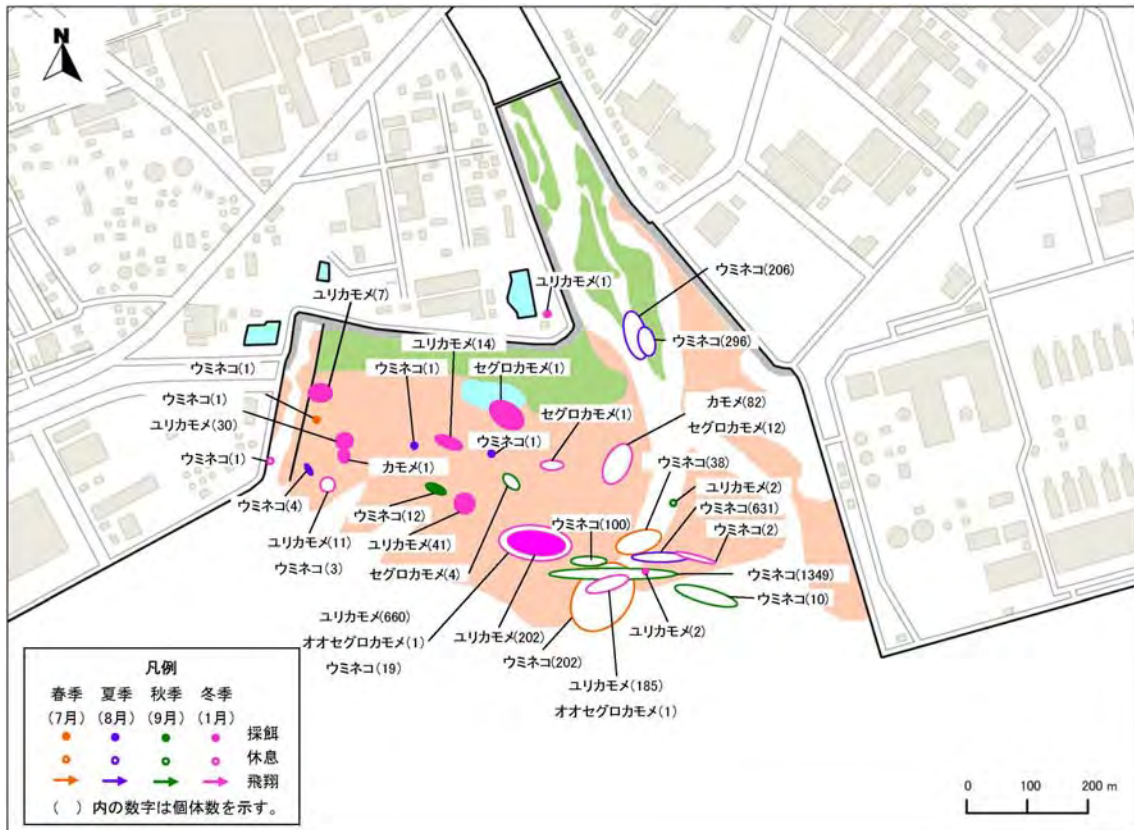
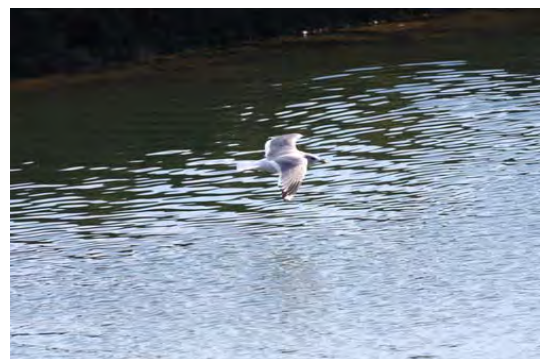


図 3.4.6 カモメ類の出現状況



ユリカモメ (1月)



カモメ (1月)

(7) セキレイ類

セキレイ類は、ハクセキレイとセグロセキレイの2種が確認され、いずれも四季を通じて確認された。

両種とも、干潟や草地、西側水路部、朝明川の中州において、1～2個体が水際を移動しつつ採食する様子が確認された。

表 3.4.8 季節別出現状況

No.	種名	渡り区分	確認状況 (H24年度)				
			春季 6月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	合計
1	ハクセキレイ	留鳥	5	20	8	9	42
2	セグロセキレイ	留鳥	4	2	3	2	11

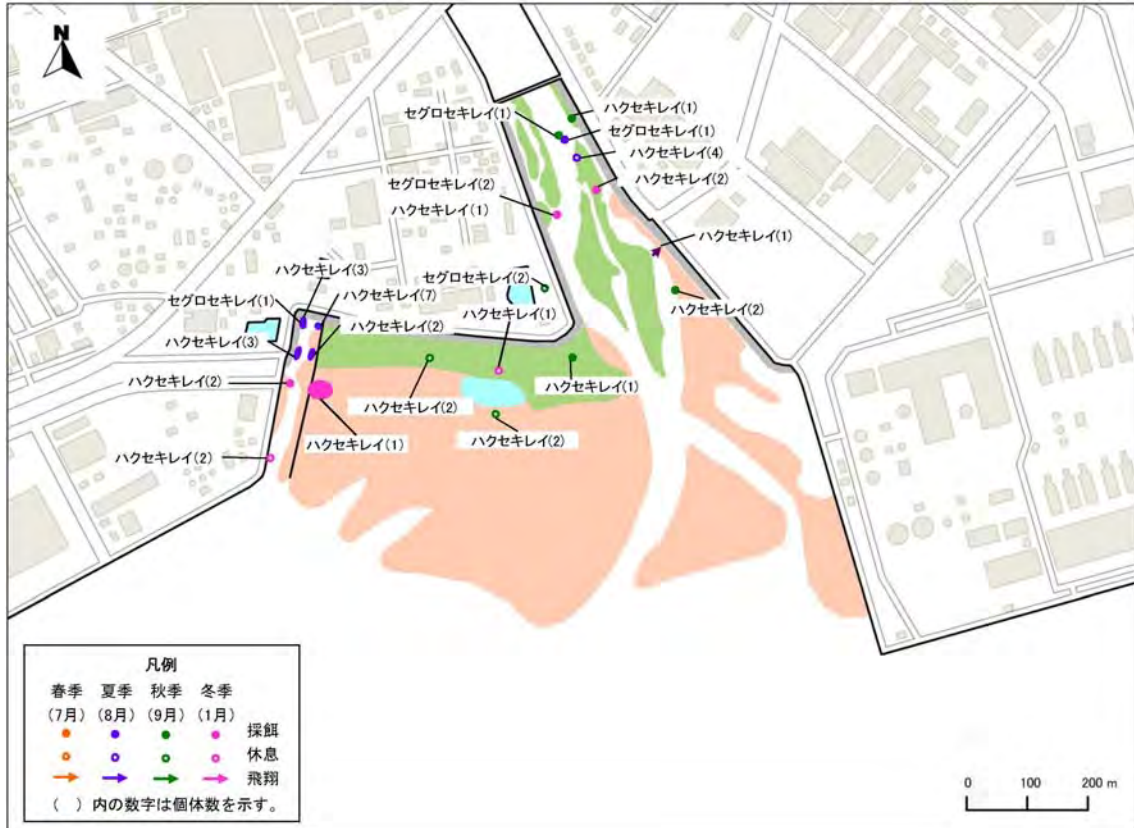
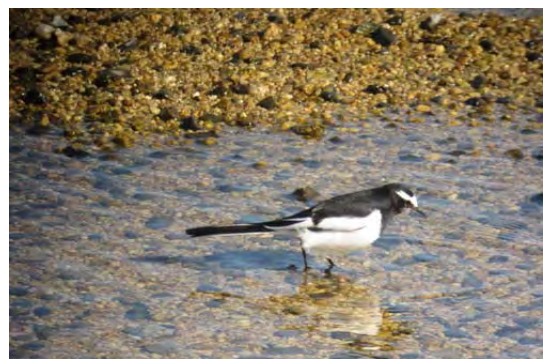


図 3.4.7 セキレイ類の出現状況



ハクセキレイ (7月)



セグロセキレイ (1月)

(8) ハシボソラス

ハシボソガラスは、四季を通じて確認された。

ほとんどの個体が干潟に集まり、潮干狩りで掘り起こされた場所で採食している様子を確認した。

表 3.4.9 季節別出現状況

No.	種名	渡り区分	確認状況 (H24年度)				
			春季 6月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	合計
1	ハシボソガラス	留鳥	26	10	48	77	161

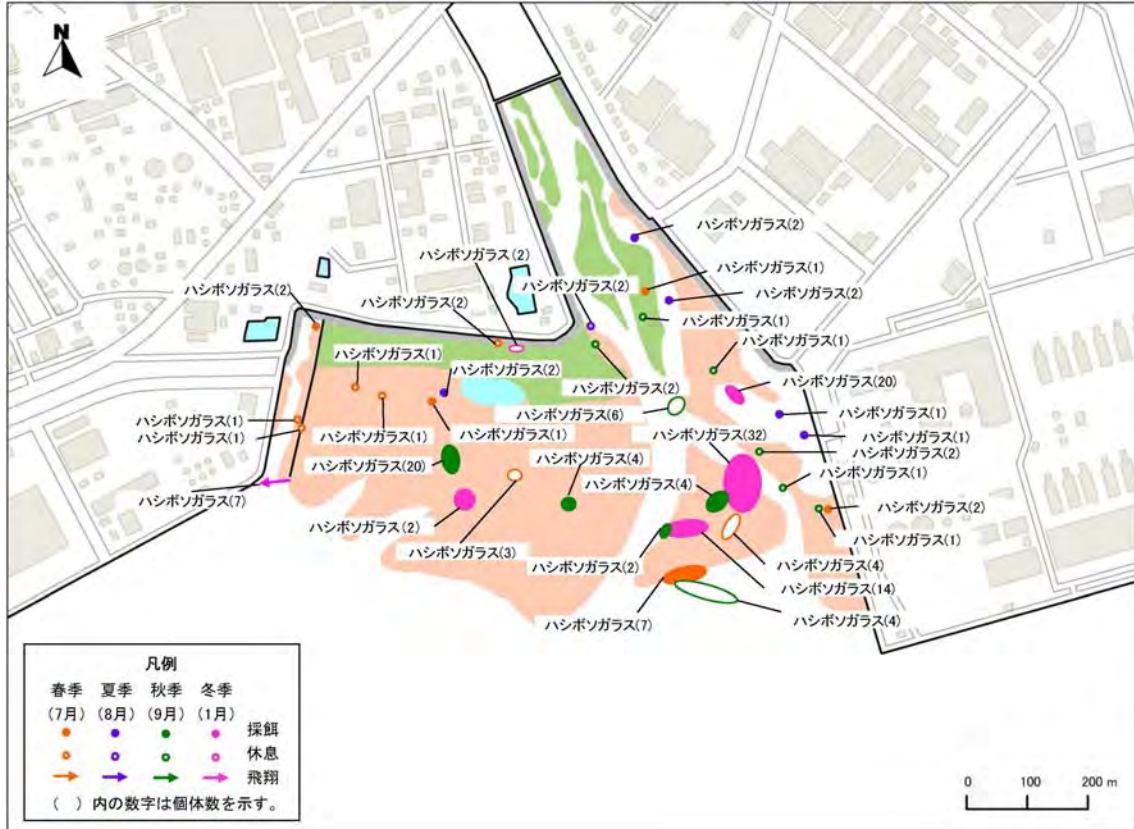
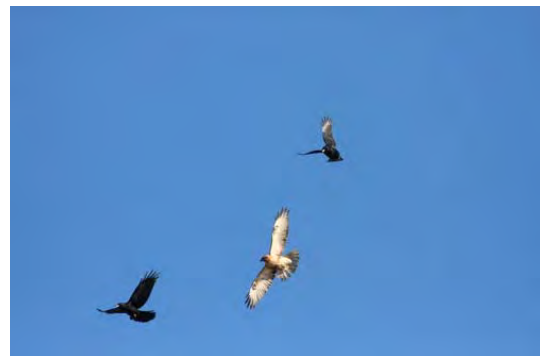


図 3.4.8 ハシボソガラスの出現状況



ハシボソガラス (7月)



ハシボソガラス (1月) 中央はノスリ

3.5 重要種確認状況

重要種の確認状況を表 3.5.1 に示す。

春季～秋季調査の確認種のうち、重要種はミサゴ、ハイタカ、ハヤブサ、コチドリ、イカルチドリ、シロチドリ、トウネン、ハマシギ、ウミネコ、コアジサシ、セッカ、シメの12種であった。各種の写真を次ページ以降に示す(ハヤブサは写真なし)。また、各種の生態等を資料編に示す。

表 3.5.1 重要種の確認状況

No.	目	科	種名	注1 渡り 区分	春季 調査	夏季 調査	秋季 調査	冬季 調査	注2		注3 希少	注4 環境省 REDLIST 2012	注5 RDB三重	注6 近畿RDB	
									天然	希少					
1	タカ	タカ	ミサゴ	留鳥			2	2				NT	EN[繁殖] VU[越冬]	ランク3 (繁殖+越冬個体群)	
2			ハイタカ	冬鳥				1				NT	NT	要注目種 (繁殖個体群) 注7	
3			ハヤブサ	ハヤブサ	留鳥				1				VU	CR[繁殖] EN[越冬]	
4	チドリ	チドリ	コチドリ	夏鳥	3								EN	ランク3 (繁殖個体群)	
5			イカルチドリ	留鳥				4					VU[繁殖] NT[越冬]		
6			シロチドリ	留鳥				44					VU	EN[繁殖] NT[越冬]	ランク3 (繁殖+越冬個体群)
7			シギ	トウネン	旅鳥			8							ランク3 (通過個体群)
8				ハマシギ	冬鳥				11				NT		
9			カモメ	ウミネコ	留鳥	241	1139	1471	26						要注目種 (繁殖個体群) 注7
10				コアジサシ	夏鳥	1					II	VU	EN	ランク2 (繁殖個体群)	
11			スズメ	ウグイス	セッカ	留鳥	1	1	3						ランク3 (繁殖+越冬個体群)
12				アトリ	シメ	冬鳥				1					ランク3 (越冬個体群)
			3目	7科	12種		4種	2種	4種	8種	0種	1種		6種	7種

注1: 渡りの区分は以下のとおりである

(渡りの区分は「三重県における鳥類分布・生息に関する調査報告書(農林水産部林業事務局緑化推進課, 1987年3月)」を参考に、近年の県内での確認状況を考慮して区分した)

留鳥: 一年中見ることが出来る種----- 6種

夏鳥: 繁殖のために渡来する種----- 2種

冬鳥: 越冬のために渡来する種----- 3種

旅鳥: 春秋の渡り期に定期的に渡来する種- 1種

注2: 「文化財保護法」(1950年5月30日法律第214号・1950年8月施行)により地域を定めず天然記念物に選定されている種及び亜種を示す。

注3: 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(1992年6月5日法律第75号・1993年4月施行)において希少野生動植物種に指定されている種及び亜種を示す。

II: 国際希少野生動植物種

注4: 「第4次レッドリストの公表について(環境省報道発表資料, 2012年8月28日)」に記載されている種及び亜種を示す。

VU: 絶滅危惧II類

NT: 準絶滅危惧

注5: 「三重県版レッドデータブック2005動物」(三重県環境森林部自然環境室, 2006)に記載されている種及び亜種。

CR: 絶滅危惧IA類: ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種。

EN: 絶滅危惧IB類: IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種。

VU: 絶滅危惧種VU: 絶滅の危機が増大している種。

NT: 準絶滅危惧種(Near Threatened): 存続基盤が脆弱な種。

注6: 「近畿地区・鳥類レッドデータブック-絶滅危惧種判定システムの開発(京都大学学術出版会、山岸哲監修、江崎保男・和田岳編著, 2002年)」に記載されている種を示す。(記載種のうち、三重県におけるランク3以上の種、およびランク4に含まれる要注目種を示した)

ランク2: 絶滅危惧。絶滅する可能性が大きい。

ランク3: 準絶滅危惧。絶滅する可能性がある。

ランク4: 特に危険なし

要注目種: 要注目種: ランク4と判定された種のうち、何らかの攪乱によって一気に絶滅する可能性がある、あるいは全国・世界レベルで絶滅の危険性があるとみなされているもの。

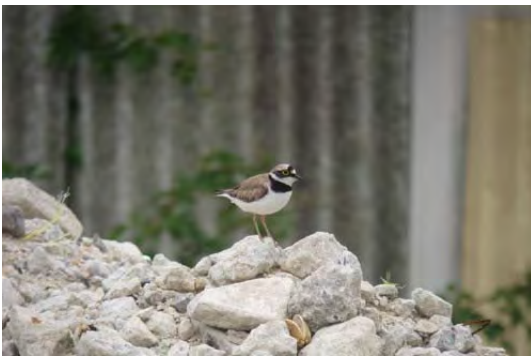
注7: 三重県においては「越冬個体群(ランク4)」とされている。



ミサゴ (1月)



ハイタカ (1月)



コチドリ (7月)



イカルチドリ (1月)



シロチドリ (1月)



トウネン (9月)



ハマシギ (1月)



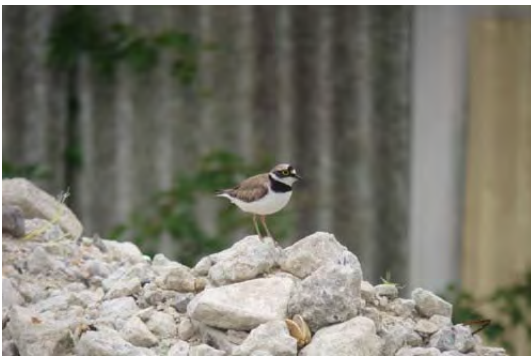
ウミネコ (7月)



ミサゴ (1月)



ハイタカ (1月)



コチドリ (7月)



イカルチドリ (1月)



シロチドリ (1月)



トウネン (9月)



ハマシギ (1月)



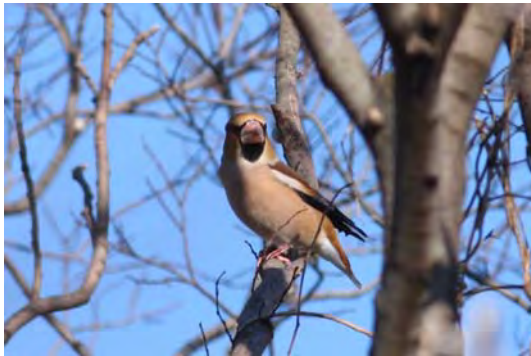
ウミネコ (7月)



コアジサシ (7月)



セッカ (9月)



シメ (7月)